

## ホスピス財団 設立 15 周年を迎えて



(公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団

理事長 柏木 哲夫



“ホスピス・緩和ケアの質の向上”をめざして、2000年12月に設立された当財団は、研究・調査事業、人材育成事業、普及・広報事業、および国際交流事業という4分野

において、多岐に亘る事業を推進し、ここに設立15周年を迎えました。この間、賛助会員の皆様を始め、関係団体、関係諸氏のご支援とご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。

この15年の間にホスピス・緩和ケアを取り巻く環境は、大きく様変わりいたしました。ホスピス・緩和ケアに関する認知も高まり、ホスピス・緩和ケア病棟数は、設立当初100に満たなかったのが、今や350施設、7100床を超えました。一方では、2025年問題、すなわち団塊の世代が死を迎えるであろう年には、病院で最期を迎えることは難しいと予測され、在宅ホスピスの拡充や、高齢者介護施設等でのホスピスケアと看取りの必要性が高まりつつあります。

その意味では、当財団の使命である“ホスピス・緩和ケアの質の向上”は、その対象をホスピス・緩和ケア病棟に留めることなく、さらに範囲を広げることが必要な時代となりました。このためには、人材育成が急務であり、従来に増して、そのニーズに答

えなければなりません。同時に質の高い、オリジナリティのある調査・研究を継続して行い、患者さんとその家族のQOL向上にも力を注ぎたく考えております。今回出版しました「新たな全人的ケア：医療と教育のパラダイムシフト」が、すべての医療従事者の礎となること、また国際的にも高く評価されている「遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究3 (J-HOPE3)」が、広くホスピス・緩和ケアの質の向上に貢献できることを願っております。

私は常々、事業を為すためには、3つのMが必要であると考えております。MISSION、MONEY、MANAGEMENTです。MISSION(使命)は前述のように、ホスピス・緩和ケアの質の向上です。MISSION遂行のためにはMONEY(資金)が必要であり、皆様からの賛助会費と寄付がその大きな財源です。MANAGEMENT(運営)は理事会、評議員会および事業委員会がその任に当たっております。

これらの3つのMはどれが欠けても事業が成り立たないものです。15周年という、一つの節目を迎え当財団は、この3Mを念頭におき、時代の要請に答えつつ、「その人らしい生を最期まで支えるホスピスケアへの貢献」を理念として、これからも歩いていきたいと願っております。皆様のさらなるご理解とご支援をお願い申し上げます。

### ホスピス財団 15 周年 記念行事の案内

#### ホスピス財団 15 周年記念講演会

- ・2016年7月2日(土) 16時から
- ・会場：新阪急ホテル「紫の間」
- ・講演 & 鼎談 柏木哲夫氏 志真泰夫氏 恒藤 暁氏
- ・参加費：無料 定員 300名
- ・申込み方法等の詳細はホームページで



#### Ellershaw 教授による講演会&シンポジウム

- ・2016年10月7日(金) 14時から17時30分
- ・会場：札幌コンベンションセンター
- ・講演 & シンポジウム
- ・参加費：無料 定員 300名 (医療従事者)
- ・申込み方法等の詳細はホームページで



## 第7回 グリーフ&ビリーブメントカンファレンス

2016年1月31日に関西学院大学梅田キャンパスにて開催され、満員の中、新しい動きとして注目されている宗教者とグリーフケアの関わりからの講演もなされ、医療従事者とは異なるスタンスでのケアの大切さを学ぶことが出来ました。参加者：76名

\*当日の資料集はホスピス財団のホームページで閲覧できます。



### 第7回グリーフ&ビリーブメントカンファレンスに参加して

小児訪問看護ステーション「ぶるうみい」看護師 大槻 奈緒子



グリーフ&ビリーブメントカンファレンスに参加し、西岡先生、黒川先生、原見先生、畑先生から、それぞれの立場からのグリーフケアについて教えていただきました。先生方のお話をきかせていただく中で、グリーフケアは多職種による多方面アプローチだけでなく、多職種がそれぞれの専門性を発揮しながらも協働する、ネットワークアプローチが重要であると学ぶことができました。

畑先生の事例検討は、グリーフケアの枠組みを越え、対人援助職が「援助するとは」という本質的なテーマであったように

思います。援助者は、被援助者を前にすると、何かをしなければならぬと思いがちです。しかし、畑先生もおっしゃっていましたが、相手と向き合おうとした時、相手にしてあげられることは、実はあまりないのではないのでしょうか。何もできない自分と向き合いながら、それでも相手と関わり続ける。援助者が不完全性(imperfection)を自覚することで関係性は生まれると思います。この「不完全」であることが、対人援助において最も大切なことの一つであると学ばせていただきました。何もできない自分を知り、何もできない自分が逃げ出さずにそばに居続け、相手とどう関わり続けるか。それを考え続けながら実践していく援助者でありたいと思います。

## 出版のお知らせ

### 新たな全人的ケア：医療と教育のパラダイムシフト

ホスピス財団は、この度「Whole Person Care : A New Paradigm for 21Century」(Springer社 2011年)の日本語訳として『新たな全人的ケア：医療と教育のパラダイムシフト』を青海社より全国で発売いたします。

Whole Person Careとはカナダ、マギル大学医学部で開発された、新しいケアの概念であり、治療と癒しの統合が、医療を受ける方々のみならず、医療者自身にも新しい力を与えるという、従来の考え方を根本的に変えるアプローチです。

本書が医療従事者のみならず、教育関係者、患者さんやご家族、そして苦悩の中にいるすべての人々に役立つことを願っております。是非、ご一読ください。



「…これまでの医学教育では治療を教えています。病気を診断・治療し、問題が起きた時には問題に対処し、悪いところがあつたら元に戻すというアプローチが求められています。この場合、患者さんは医療従事者に頼り、力は医療従事者にあります。しかし、これだけでは不十分であり、癒しというもう一つのアプローチが必要になります。それは病気としっかり対峙し、病気と共に人間として成長し、悪いところが元に戻せない場合、変化を受け入れることを支援することです。この場合、患者さんご自身が力の源になります。これが癒しという概念です。

Whole Person Careの教育では、治療と癒しの両方をバランスよく提供することのできる医療従事者を育てるのが理念です。…(中略)…医療従事者は、患者さんとのどのように向きあえばよいのでしょうか。一言で言えば、自己知覚(Self Awareness)、自己ケア(Self Care)、マインドフルネス(Mindfulness)などの取り組みにより自分の全人を整えていく中で、初めて苦悩の中にある患者さんに向き合うことが可能になります。…」

(解説より抜粋)

#### 『新たな全人的ケア：医療と教育のパラダイムシフト』

- ・発行 2016年4月中旬
- ・編 トム・A・ハッチンソン
- ・翻訳 恒藤 暁
- ・発行所 (公財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
- ・発売 株式会社 青海社
- ・定価 2,000円(税別)

■ご注文は、書店または青海社へ

### 予告

#### Hutchinson 教授による出版記念講演会 開催

ホスピス財団では、『新たな全人的ケア：医療と教育のパラダイムシフト』の出版を記念して11月26日(土)、27日(日)に大阪、東京にて「Hutchinson 教授による出版記念講演会」を開催いたします。詳細はホームページにて近日中にお知らせいたします。

## お知らせコーナー

## J-HOPE3（遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究3）刊行

J-HOPE は世界的に最大規模かつ質の高い研究として国際的にも評価されていますが、3回目として 2012 年から4年間に亘る大規模な調査・研究の成果が、この度 J-HOPE3 として纏められました。ホームページでも公開しておりますが、ご希望の方には 500 円で頒布いたします。（ホスピス財団賛助会員には無料で送付しております）



## ホスピス・緩和ケア白書 2016 発売中

特集テーマ

「緩和ケア・がん患者サロン・デイホスピス」

発行所 株式会社 青海社

2200 円（税別）お求めは書店で。

（ホスピス財団賛助会員には無料で送付しております）



## 第9回 Whole Person Care ワークショップ

好評の Whole Person Care ワークショップが本年も開催されます。多数のご参加をお待ちいたします。

●2016年8月27日（土）9:30～19:30

●会場 千里ライフサイエンスセンター  
（大阪府豊中市）

（第1回から第9回は同じ内容です）

詳細はホームページをご覧ください。



## 新刊・近刊紹介

いのちをつくってもいいですか？



島菌 進 著

NHK 出版 2016年1月刊

1300 円（税別）

科学や医学、とりわけバイオテクノロジーが発達することで、従来は治癒が難しかった病気がその恩恵で、治癒が可能になるなら、それは素晴らしいことではと歓迎するのは、しごく当たり前のことであるかのように思われるが、果たして、本当にそうなのか、それが人類にとって本当の幸せにつながるのかという深遠な問いかけを投げかける書である。

著者は、エンハンスメント（身体改造）、出生前診断、また iPS 細胞と再生医療という様々な観点から、いのちの倫理が抱える課題を思索し、我々に問うている。また宗教哲学者であり、死生学を専門とする著者は、いのちは授かりもの、恵みであることも忘れてはいけなと発信している。医療従事者に限らず、多くの方々に一読を薦めたい良書である。

## 神戸医療生活協同組合 神戸協同病院

緩和ケア診療部部长  
道上 哲也

私たちは神戸の下町にある緩和ケア病棟です。

2015年6月に開設しました。

スタート時から、医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリセラピスト、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、事務職員、そしてボランティアの方々という多彩な人がそれぞれ自覚的に行動するとともに、集団として患者様・ご家族様のケアにあたっていることが自慢です。

写真は疼痛のために寝たきりとなっていた患者様が症状コントロールとリハビリにより歩けるようになった姿、もう一つは楽し



いひとときを過ごせたクリスマスパーティーです。

「これ以上の治療は難しいです」と告げられて紹介されてきた患者様・ご家族様に、「必ず何かできることはあるはずだ」との姿勢で苦痛の緩和とともに QOL の向上に取り組んでいます。

勉強しながらの毎日で、悩みはたくさんありますがみんなでたえず相談しながら、また先輩のホスピスに教えを乞いながらやってきました。

「このような病棟がもっとたくさんあればいいのにな」

亡くなられた患者様の娘さんが帰られるときにそっと耳元でささやいてくださいました。私たちの元気の源です。

差額ベッド代のない全室個室と駅から近いという環境が患者様・ご家族様から喜ばれています。

日々の取り組みはホームページのブログで紹介しております。ぜひご覧ください。

(<http://kobekyodo-hp.jp/kanwacare/>)

緩和ケア病棟に対する要望はますます高まっているを感じながら、知識を深め、経験を重ねながら、おもてなしの精神で頑張っています。

先輩方のご指導、ご助言をよろしく願っています。

こんにちは  
ホスピス

## ホスピス財団 2016年度 事業計画書 (概略) (2016年4月～2017年3月)

1. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究【J-HOPE 4】(第4次調査・第1年度)
2. 『ホスピス・緩和ケア白書 2017』(研究論文集+データブック)作成・刊行
3. 非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査(第3年度)
4. わが国における小児患者に対する緩和ケアチームの介入についての実態調査
5. 認定・専門看護師による診断・治療開始時期のがん患者と家族へのオリエンテーション・プログラムの開発
6. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー(公募)
7. 第9回 Whole Person Care ワークショップ
8. グリーフケア研修セミナー(公募)
9. 高齢者介護施設等の看取り教育研修
10. Hutchinson 教授による翻訳出版記念講演会
11. ホスピス・緩和ケアフォーラム2016
12. ホスピス財団15周年記念講演会
13. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
14. 一般広報活動
15. ともいき京都1周年記念イベント
16. International Congress on Palliative Care 国際会議
17. Ellershaw 教授による講演会&シンポジウム
18. アジア太平洋ホスピスネットワーク(APHN) 関連事業
19. 日・韓・台 第2期 共同研究事業(2年目)

### 寄付者一覧 (2015年9月～2016年2月 順不同、敬称略)

- (個人) 木村 みどり  
与茂田 千鶴子  
谷 信也  
鍋谷 堯爾、由美子
- (団体) 阪神聖書研究会  
遺愛女子中学・高等学校

### 新規賛助会員 (2015年9月～2016年2月 順不同、敬称略)

- (個人) 松尾 大志  
八鍬 弘子  
中平 博子  
大塚 承子
- (団体) 医療法人社団プラタナス 松原アーバンクリニック

### 寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは **06-6375-7255** です。



## ホスピス財団 2016年度収支予算書 (概要)

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(単位：千円)

| 科 目                       | 2016年度予算 |
|---------------------------|----------|
| <b>【経常収益】</b>             |          |
| ①基本財産運用益                  | 3,978    |
| ②受取寄付金                    | 31,500   |
| (内訳) 賛助会費収入               | 25,500   |
| 一般寄付金収入                   | 1,000    |
| 使途指定寄付金                   | 5,000    |
| ③雑収益                      | 1,505    |
| 経常収益計 (A)                 | 36,983   |
| <b>【経常費用】</b>             |          |
| ①事業運営費                    | 37,630   |
| (内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業 | 9,785    |
| ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業      | 9,777    |
| ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業      | 9,975    |
| ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業       | 8,093    |
| ②一般管理費                    | 6,004    |
| 経常費用計 (B)                 | 43,634   |
| 当期経常増減額 (A - B)           | ▲6651    |

### 編集後記

桜の開花便りとともに、本誌30号をお届けいたします。そして、ホスピス財団設立15周年を迎える年となりました。

この15年間で、ホスピス・緩和ケアを取り巻く環境は大きく変化しましたが、それ以上に世の中も目まぐるしく変化しているように感じます。一方で、東日本大震災から5年が経過しましたが、解決にはほど遠い状態です。社会を脅かすテロリズムも絶えるときがありません。

そういう世の中だからこそ、マインドフルネスな生き方が求められるのではないのでしょうか。混迷の中において、“足元を見失ってはいけない”と言われます。終末期を迎えている多くの患者さんと家族には、世の中の混迷とは別世界の、足元を見失うことのない、その日一日を大切に生きると言う、マインドフルネスな生き方をされているのだろうと思われています。

この桜あの桜 どれもこれも  
きみと見しなり 京都のさくら 永田和宏 (歌人)

編集子